

## 保育のヒント～「科学する心」を育てる～

### “生き物として感じ”、関わる／岡崎市根石保育園

子どもたちは生き物を“生き物として感じ”どのように関わっているでしょうか？[前回は4歳児の育ちをご紹介します。](#)

今回は、1歳児、2歳児が生き物と関わる場面の言葉や姿をご紹介します。幼い1歳児、2歳児であっても、繰り返し関わることで「身近な生き物に親しみを感じる」という体験をし、「科学する心」が育まれることが期待できます。乳幼児には、生き物のいる環境がとても大切であることが分かります。



### ● 生き物と向き合っている子どもの言葉／1・2歳児

#### ✦ 1歳児 カメに話しかける

入園当初、母親と離れた淋しさから、大泣きしていたAちゃん。保育者と一緒に過ごすことで、落ち着き始めていた。そんな頃「ママ来る？」と保育者に何度も尋ねるようになった。その度に、Aちゃんの心が落ち着き、満たされるよう保育者は「ママ来るからね！」と返事をしていた。Aちゃんは5月に入り、少しずつ周りに目が向けられるようになると、園内散歩に出かけてカメを見に行くのが日課になる。初めのうちは、タライを動かしたり揺らしたりして、物のように扱っている様子であった。

数日後の降園時間の少し前、いつものように園内散歩に出かけた。金魚を見たり、ザリガニをみたりして最後にカメに合った時のこと、他の子どもたちが「カメさん」とカメに話しかけている中、Aちゃんは「ママ来る？」とカメに向かって話しかけた。



#### ✦ 2歳児 ザリガニさんに言う

保育室に用意したザリガニの図鑑が大人気。たくさんの写真を真剣に見ては「これ何？」と聞く。

子：「これ何？」

保：「口だって。ご飯食べるところ」

子：「これは？」

保：「ここからおしっこするんだって。ザリガニもおしっこするんだね」

このような会話から自分たちと同じようにザリガニもご飯を食べたり排泄したりすると知る。

子：「ザリガニお腹すいたかな」

子：「ザリガニこっち見てるね！」

など行動に注目している姿がある。自分の行動と重ねてザリガニの行動を見ている。Bちゃんは遊んでいたパズルが完成した時、パズルをザリガニの方に向けて「できたよ！」と見せている。

Cちゃんは小便がトイレでできた時、「やったー！ママに言う！パパにも！！ザリガニにも！！」と言う。そして、「おしっこでたよー！」とザリガニに報告する。



## ✦ 考察

---

1歳児も2歳児も、カメやザリガニに出合った当初は「何だろう？知りたい」と思って、関わっている。1歳児は生き物と感じ取り、話しかけている。2歳児は生き物と分かっている興味をもち、良く観て見付けたことを「何かな？知りたいな」という思いで関わっている。仲間のような身近な存在の生き物になっている。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」